



衆議院議員 小松裕氏がMCI診断講座に参加

# 応援メッセージをいただきました

衆議院議員の小松裕氏が、4月26日に長野市で行われた「MCI診断士養成講座 長野」に参加され、応援のメッセージをいただきました。



みなさんこんにちは。衆議院議員の小松裕です。

私は2年半前に国会議員になったのですがそれまで医学の世界にいました。消化器内科医として医師の現場にいて、そして同時にスポーツドクターとしてオリンピック選手たちを支えるという仕事をしていました。医学ではなかなか解決できない問題に取り組みたいと思い、長野一区から公募で選んでいただき受からせていただきました。【中略】

昨年の秋から、様々な認知症に対するしっかりした取り組みをしなければいけないということで、私も認知症対策議連の事務局次長として対策に取り組んでいます。今、国会が開催中でありますけども、冒頭の**安倍総理の所信表明に、「認知症対策にしっかり取り組んでいく」という言葉がありました。**そして、塩崎厚生労働大臣の所信表明でも同様の言葉が入りました。【中略】**2012年の調査の推計では462万人の方が認知症とされています。これは、10年後2025年には700万人になる。高齢者の5人に1人が認知症です。**それに備えた対策を今からしっかり考えておかなければならない。そして、**TOSSの取り組み、みなさんの取り組み、本当に大事なことだと思います。**【中略】

私は医者だったのですが、なんとなく認知症は歳をとったらみんななると。老化現象じゃないかという想いが一部であるように思います。つまり、認知症というのは誰でもなるのだと。誰でも身近な人が関わる可能性があるということをとくさんの人に知ってもらおうと。そして、単なる老化現象ではなくしっかり予防をして場合によっては治療をするという観点が大事だと思います。こういった取り組みをすることによって認知症自体の理解度が深まっていくと思います。皆様方の活動がこの認知症にならないだけでなく、認知症とはこういうものだということをみんな理解して認知症を優しく包むことに繋がるのではないかと思います。

3月の質問では、認知症対策について特に薬剤師教育や看護師教育、そういった専門職の教育の方々に認知症を扱っていただくべきだと質問させていただきました。そして同時に**認知症というのは色々なタイプの認知症がありまして、治療をすれば病気が治る認知症の方もいます。**早く診断すれば治るという取り組みを一生懸命やっというと思います。今やらないと、日本は安心して医療を受けられる状況ではなくなるという危機感をもって取り組んでいます。ぜひ、今回の講座、これから先も皆様方が認知症を知って活躍されるだけでなく、それをたくさんの人に広めることをお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。